

公立刈田総合病院の運営状況について

佐久間 儀郎



しつこ。

〔質問〕医師が退職した診療科の現状と、新たな診療科の予定を伺う。

〔質問〕入院患者数、医療収益、救急外来、救急車による搬送受入れ実績を伺う。

〔答弁〕〔病院事業管理室長〕7月の実績で、入院患者数は稼働病床152床に対し一日平均113床、約75%の稼働率であり、指定管理者制度開始前の令和5年3月と比較すると一日当たり18人、13ポイント改善。医療収益は、約2億2千万円を計上。令和5年3月と比較し、約2千万円増加。救急外来、救急車の搬送受け入れ数は345件で、うち救急車の受け入れが113件。救急外来受付数で96件、救急車受け入れで47件増加

〔質問〕7月から整形外科の手術を開始しており、脊椎や膝の予定手術だけでなく、高齢者の転倒による大腿骨骨折の緊急手術も行なっている。産婦人科は子宮頸がん検診を中心に、週4日の診療体制を整えることができた。

〔質問〕医師が退職した診療科の現状と、新たな診療科の予定を伺う。

〔答弁〕〔市長〕小児科は週2回の外来診療を再開。今後、常勤医師の採用を予定している。神経内科は総合診療科で治療を継続、特に問題は発生していない。

7月から整形外科の手術を開始しており、脊椎や膝の予定手術だけでなく、高齢者の転倒による大腿骨骨折の緊急手術も行なっている。産婦人科は子宮頸がん検診を中心に、週4日の診療体制を整えることができた。

今後医療ニーズを的確に反映し、地域医療の充実に取り組んでいく。

〔質問〕従来の53床から47床増やし、100床にする

〔質問〕空き病棟について、地域ニーズ、住民サービスを最適化できるように検討していると思うが、状況を伺う。

〔答弁〕〔市長〕空き病棟の活用は大変重要と考える。医療以外の施設として使用する場合は、さまざまな工夫、課題があり、指定管理者とも協議を重ねていきたい。

検討にはしばらく時間がかかることをご理解いただきたい。

〔その他の質問〕

◎学校の不審者侵入防止対策について

学力向上について

村上由紀



学力の改善を推進させた要因の一つと捉えている。

〔質問〕学習状況調査について伺う。

〔質問〕令和5年度「全国学力・学習状況調査」の学力テストの結果を伺う。

〔答弁〕〔教育長〕生活・学習習慣」「規範意識」「自己有用感(自分は誰かの役に立つ存在である)」「学習に対する興味・関心」3つの領域で調査している。小・中学校ともに「学習に対する興味・関心」が、小学校においては「自己有用感」が全国平均よりも高い結果である。小・中学校の「生活習慣・学習習慣」は、小学校の「規範意識」は全国平均とほぼ同等、課題は中学校の「規範意識」が全国よりもやや低い結果であったことである。

〔質問〕令和5年度「全国学力・学習状況調査」の学力テストの結果を伺う。

この結果内容は市全体のものであり、学力面と同様、学校によりばらつきがある。学校ごとの結果を確認し、改善に向けた指導支援を展開していく。学習状況調査と学力調査結果の関係を分析し、今後の対策に生かしていく。

〔質問〕空き病棟について、地域ニーズ、住民サービスを最適化できるように検討していると思うが、状況を伺う。

〔答弁〕〔教育長〕少子化の進行、人口減少は学校教育の在り方にも大きな影響を及ぼしている。さらに、特別支援教育の対象児童・生徒、不登校児童・生徒の増加などに対し適切な支援が求められる。学校教育には、「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」「ウエルビーイング(協調的な幸福感)の向上」が求められている。また、「全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学び」の一体的な充実を図り、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた取り組みをさらに進め、教育の質の向上を目指す。

〔その他の質問〕

◎学校再編について

〔質問〕令和5年度「全国学力・学習状況調査」の学力テストの結果を伺う。

〔答弁〕〔教育長〕生活・学習習慣」「規範意識」「自己有用感(自分は誰かの役に立つ存在である)」「学習に対する興味・関心」3つの領域で調査している。小・中学校ともに「学習に対する興味・関心」が、小学校においては「自己有用感」が全国平均よりも高い結果である。小・中学校の「生活習慣・学習習慣」は、小学校の「規範意識」は全国平均とほぼ同等、課題は中学校の「規範意識」が全国よりもやや低い結果であったことである。

〔その他の質問〕

◎学校再編について